

青木邦男教授・赤羽潔教授・志村哲郎教授・三島正英教授 退職記念特集に寄せて

社会福祉学部長 草平 武志

山口県立大学社会福祉学部にとって、一つの歴史が終わるといえるのかもしれない。あるいは、一つの転換点を迎えたといってもよいのかもしれない。

今春退職される青木邦男教授・赤羽潔教授・志村哲郎教授・三島正英教授の4人の先生方は、1975（昭和50）年設立の山口女子大学文学部の改組を推進され、1994（平成6）年の山口女子大学社会福祉学部の誕生に寄与された。新設社会福祉学部においても学部の基盤を構築し、教育研究活動を進展させるという多大な功績を残された方々である。今回、4人の先生方のご退職を記念し、学部紀要第21号を刊行できたことに感謝する。

設立当初の学部は、文学部から移籍された心理学、社会学、教育学等諸科学を専門とする教員と学部誕生と同時に採用された福祉系教員によって構成されていた。福祉系教員の多くは実践経験を有するものの、大学での教育研究の経験が必ずしも豊かでない中、4名の先生方には、社会福祉領域における実践と研究の統合の重要性を理解いただき、今日の社会福祉学部の基盤を形成いただいた。

本学部創設期に赴任した私にとっては、先生方の存在は極めて大きく、大学における教育研究に関して教示いただける「師」であり、折に触れて諸課題について相談できる「兄」であった。

これだけの先輩方に囲まれた環境で、教育研究に臨むことができたことは幸せであったと感じえずにはおられない。

山口女子大学文学部から社会福祉学部の創設、学部の基礎づくりなど本学の一時代を形成された先生方を失うことは極めて残念なことであるが、これからは私たちが新しい時代をつくと改めて決意するものである。

それぞれの先生方への送別の辞は、本文中の他の方々に譲るが、先生方に心から感謝の意を表すとともに、諸先生方が、今後ともお元気で幸福な人生を送られますよう祈念申し上げます。

